



愛媛県立八幡浜工業高等学校

〒796-8003

愛媛県八幡浜市古町二丁目3番1号

TEL 0894-22-2515

FAX 0894-22-3106

昭和37年 愛媛県立八幡浜工業高等学校設立許可

教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的國家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を育成することを教育方針とし、基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成を努力目標とする。

学級数：9 生徒数：311 機械科・電気技術科・土木科

育てたバラを高齢者に贈る

園芸部の生徒が育てたバラを近隣の高齢者に届けている。1年生全員が学校から30分以内に住まいのある高齢者を訪問して贈る。たいへん喜んでいただくことも多く、「高校生とのやり取りで元気もらっている」と、温かいお礼の言葉をいただくことも多い。生徒は、「行ってよかった」と次の活動への意欲につながっている。

また、地域から依頼のあったボランティア活動を家庭クラブ・VYS部が中心となって行っている。福祉施設や地域の幼稚園でのイベントのお手伝い、八幡浜マウンテンカーニバルではレースやバザーの補助、児童センター「夕涼み会」においてお化け屋敷設置のお手伝い等、体力のいる仕事を任される。

高校の体育祭、文化祭には、地域の幼稚園児・高齢者も招待する。幼稚園児は、高校の大きなグラウンドでとても楽しそうにダンスを踊り、高校生と一緒にかけっこするので、保護者も毎年楽しみにしてくれている。男子が多い高校なので、「ダイナミックに遊んでくれるお兄ちゃん」にとっても嬉しそうである。

また、文化祭では、和菓子を作り、お茶席を設けて高齢者を接待する。

高校の行事は、地域の方がたくさん来られるので、たいへん賑わうことになる。



人から感謝される経験を積むことで、自己有用感を高めることができた。自分に自信が持て、また人の役に立ちたいという思いを持つ生徒も多い。

本校は就職希望者が多いため、社会人としても地域に貢献できる人材が求められているので、ボランティア活動は非常に重要であると考えている。しかし、部活動の加入率が高いこともあって、休日に行われるボランティア活動に加できない生徒が多い。



愛媛県立川之石高等学校

〒796-0201

愛媛県八幡浜市保内町川之石 1-112

TEL 0894-36-0550

FAX 0894-36-1994

大正 3 年 伊方実践農業学校および大正 5 年 川之石実践女学校創立 この両校を母体とする

昭和 23 年 学制改革により川之石高等学校となる

平成 8 年 学科改編により総合学科

生徒にとって満足度の高い学校、保護者にとって信頼できる学校、地域にとって無くてはならない学校を目指し、確かな学力の定着と向上、豊かな人間性の育成と向上、「夢」をかなえる進路指導の実践、安全・安心な学校づくり、教育環境の整備に努める。

学級数：9 生徒数：348 総合学科（スポーツ科学系列・情報ビジネス系列・福祉サービス系列
生物生産系列・自然科学系列・人文国際系列）

全校生徒で地域に恩返し

主に福祉サービス系列を中心として、積極的にボランティア活動を行っている。地域の病院主催の運動会の補助やフットサル交流、発達支援センターにおける未就学児夏休みプール遊びのお手伝い（一人に一人の生徒がつく。今年度は野球部生徒が参加）、「福祉のつどい」、文化祭等で手話コーラスの披露、公民館でお弁当を作りそのお弁当を一人暮らし高齢者宅への配布等がある。公民館へ直接来られる高齢者とは一緒に食事をする。

福祉系で就職する生徒のほとんどは近隣の福祉施設に行くことが決まっている。

平成 21 年、当時の校長が、積極的に活動をしていた生徒のために、何か形のあるものを取り入れたいと、「ボランティア活動認定制度」をつくった。この制度は、一定時間以上の活動を行った者に対して、認定証を授与しその取り組みを讃えるというものである。まず、事前登録が必要となるが、初年度が 65 名だったのが、平成 25 年度には 145 名と年々増加している。今では、学校全体の取り組みとして、男女、年次、部活動、進路を問わず、多くの生徒がボランティア活動に参加するようになった。

生徒は、依頼された活動に積極的に参加するものの、自分たちが企画し実践するという点では、まだまだ十分とは言えない。今後、生徒自らが動き、達成感が味わえるような活動を増やして行く必要があると考えている。「ボランティア活動」はとても地道で高校生にできることは限られているが、今まで育ててもらった地域への恩返しとして、地域の発展につながる活動をこれからも続けていきたいと考えている。さらに、この活動が将来へとつながり、地域の福祉活動を担う人材育成へと発展することを願っている。



地域の人とブローチ作り



児童センターで赤ちゃん和交流





愛媛県立三崎高等学校

〒796-0801

愛媛県西宇和郡伊方町三崎 511

TEL 0894-54-0550

FAX 0894-54-2247

昭和 26 年 愛媛県立三崎高等学校創立

生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成することを教育方針とする。

本年度の努力目標は三崎高校を大切に！！少人数教育の充実を目指して

学級数：5 生徒数：94 普通科

小学生といっしょに佐田岬13里見て歩き

8月、伊方町の小学生の手をつないで1泊2日、2日に分けて、佐田岬 39.5 kmを歩いた。全校で希望者を募るがほとんどが VYS 部の生徒である。主催は伊方町の公民館だが、毎年、「来年もお願いしたい」といつてくれる。

部員は 16 名。毎日、校内外の清掃活動などに取り組んでいる。

地域の高齢化が進む中、地域の一員としてイベントの補佐等に生徒が積極的に参加して活動している。

生活基盤が地域のため、ほとんどの生徒は地域住民に把握されており知り合い状態である。

三崎の祭りでは高校生は獅子舞を、小学生は太鼓を叩く。3日間をかけて一件ずつ回った。また、二名津の鯉のぼり祭や佐多岬ふるさとウォークの運営補助も行っている。

クリーン愛媛では、中学生や地域の方々と河川敷の草刈りをした。



イベントを終えると、楽しかった、来年も参加したい、「ありがとう」と言われて嬉しいという感想が多いが、おとなしくて、言われたとおりにする生徒がほとんどで、自ら動くことができない。参加することだけではなく、活動そのものにおいて、自主性を育てていく必要があると思う。

2年生の修学旅行先である渋谷で、JA 西宇和の提供で道行く人にミカンを配った。学校に「高校を応援しています」とのメールがたくさん届き、三崎を知ってもらえる良い機会となった。

現在、ホームページを毎日更新している。



愛媛県立三瓶高等学校

〒796-0908

愛媛県西予市三瓶町津布理 3463 番地

TEL 0894-33-0033

FAX 0894-33-0538

大正 5 年 第二山下実科高等女学院として設立

平成 24 年 学制改革に伴い愛媛県立三瓶高等学校となる

三高スピリット、思いやりの心（徳） 向上する心（知） 健やかな心（体）を教育方針とし、自己教育力の高揚を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。

学級数：6 生徒数：124 普通科

清掃活動は保護者も一緒に

学校の周り等、敷地内を全校一斉に清掃活動をする。生徒の数が少ないので保護者の力も借りる。小中高と一緒に生徒が多いので、保護者もほとんどが顔見知りで、軽トラックを出してくれたり、気軽に声をかけてくれたりしてくれる。

また、三瓶の生徒は小学校で百人一首を覚えさせられる。そのこともあって、高校では講師を迎えて2年生全員が百人一首にチャレンジしている。

1年生は夏休みを利用して年1回、特別養護老人ホームを訪問し、食事介助やレクレーションのお手伝いをする。三瓶高校出身の介護職員も数名いて、後輩のために介護職への就職をすすめてくれることもある。

年に1度、三瓶町のお祭り、三瓶町奥地の海のカーニバルがあり、生徒は、そこにボランティアスタッフとして参加、「たらいに乗って海へカーリング」ゲームの補助やゴミ拾い、受付・案内等をする。遊覧船もでるこのお祭りは、毎年県内外から数千人の参加者がある。



祭りのボランティアでは地域住民との交流もあり、三瓶町という小さな町で生活していく者として人とのつながりを学ぶことができている。

生徒数が少なくなってきたため、清掃活動においては広範囲で作業することができない。積極的に活動に参加している生徒は見られるが、全く参加できていない生徒もあり、そういった生徒にどのような声をかけてボランティア活動に参加させるかが今後の課題である。



愛媛県立宇和高等学校

〒797-0015

愛媛県西予市宇和町卯之町四丁目 190 番地 1

TEL 0894-62-1321

FAX 0894-62-6127

明治 41 年 宇和郡立養蚕学校が開校

大正 7 年 愛媛県立宇和農業学校と改称

昭和 24 年 愛媛県立宇和農業高等学校・愛媛県立東宇和高等学校が合併し愛媛県立宇和高等学校となる

「大地と共に心を耕せ」という教訓は札幌農学校の教育理念とされ、農蚕学校を前身にもつ本校の「農場訓」として引き継がれている。豊かな心を持ち、たくましく今世紀を生き抜く生徒を育成する本校にとって、この「大地と共に心を耕せ」は、普通科・農業科から成る総合制高校の教育理念として最もふさわしく、誇らしい言葉である。宇和高校では、さまざまな教育活動を通して「こんな大人になってほしい」という視点での教育を行っている。

学級数：10 生徒数：328 普通科・生物工学科

介護施設へ年 2 回のお便り

毎年、比較的余裕のある授業の時間を利用して、暑中見舞いと年賀状を書き、介護老人福祉施設へ送る。高齢者からは、「応援している」「優しい言葉にはげまされて元気が出た」等、感謝の気持ちがあふれた心のこもった手紙が届く。

また、琴の演奏をディサービスからの依頼でしているが、その日に合わせて家庭クラブも訪問し交流をしている。

VYS 部は、保育所の夕涼み会のお手伝いや毎年 4 月 29 日の市のイベント、「れんげ祭」に障害者施設の人と一緒に出演して楽しんでいる。児童館の夏休みやクリスマスイベントのお手伝い、特別支援学校の学園祭での販売などもする。VYS の生徒は、このような活動を楽しみにしており、休日でも率先して行く。部員は 25~26 名いるので、同時期のボランティアであっても、どの活動に行くかは相談して決めている。高齢者は、若い人が訪問するととても喜んでくれる。施設の職員は、「普段はあんなに一生懸命しない」といい、生徒は「握手の手を放してくれない」と笑いながら言う。

図書委員会では、児童館にて本の読み聞かせをしている。パネルシアターや紙芝居の準備がたいへんそうであるが、子どもたちの笑顔を楽しみに活動している。



お琴の演奏



読み聞かせの様子



生徒会はペットボトルの回収や地域の清掃活動を行っている。高校生のおきにボランティア活動を通して、人とのかわりについての基本的な姿勢を身に付けておく必要がある。参加活動すると「生きた言葉」で伝わることが多い。しかし、部活に忙しい生徒は時間がないので授業の一環でやってもいい。固定的なイメージで考えないで、広い視野をもって生徒を育てたい。